



■2010年11月のマンスリーNEWS

「幸せって何だっけ？何だっけ？」 幸せを考える！ ブータン 特集号

■11月のアークル

今年も11月を迎え、残り2ヶ月となってしまいました。私達自販機業界も真夏の猛暑のことなどはすっかり過去のものとなり、冬商戦まっただ中です。

さて自販機のホットへの切り替えですが、当社としては10月末をオールホット（2室ホット以上）の完成を目指し活動を続けてきました。タイミング的には10月末からかなり寒くなってきましたので、ちょうど良い感じだったのではないのでしょうか。しかし今年は猛暑だったため、夏物商材のセットが多く、冬物商材への切り替えがかなり難しい年でした。J T飲料においてはコーヒー全品のリニューアルもあり、この入れ替えも苦労した一つでした。



そんな中当社では3回目のセッティングキャンペーンを行っています。昨年の秋冬からスタートしたキャンペーンで、今回で3回目になります。内容もかなりブラッシュアップされ、商品のアイテム数アップや季節感のある自販機作りなどテーマもより細かな項目になってきました。例えばサントリーの自販機は、出来るだけホットフル活用を目指します。通常であれば、冬に弱いサントリーというイメージから2室ホットがあたりまえだった切り替えも出来るロケは3室にし、「ここまでやるか！」という感じに手を加えていきます。冬に強いダイドーについてはレトルト商品の充実を怠りなく、より季節感のある自販機を作っていきます。

今回のセッティングキャンペーンの一つの大きなポイントとして、“冬のイメージの自販機”という項目があります。自販機を一目見たときに暖かそうなイメージはあるか？ホットの商材がバラエティーに富んでいるか？商品サンプルの並び方の色合いはどうか？などが採点ポイントの分かれ目になるのではないのでしょうか？今回のキャンペーン勝者の栄冠は誰に輝くのか？当社の中ではとても注目されるイベントになったことは間違いありません。

さて飲料業界での話しです。先頃日経新聞に「伊藤園業界3位に！」という記事が躍り出ました。当マンスリーでも前々から麒麟の低迷、伊藤園の好調は伝えてきましたが、出荷数でどうやら伊藤園が麒麟を抜いたようです。今回の伊藤園の出荷数増加の大きな要因としては、大手スーパーなどのOEMに積極的に対応していった点です。確かにOEMを供給することは、低価格を推進するということになるのですが、いまどきのメーカー戦略としては低価格は低価格のカテゴリーで勝ち、プロパーはプロパーのカテゴリーで勝ち、自販機は自販機のカテゴリーで勝つというような、それぞれのマーケットを前向きに容認し捉えその中で勝利することが大切な要因なのかもしれません。

また伊藤園はタリーズというコーヒーブランドを手に入れたのも成功の大きな要因なのでしょう。ジョージア、ボスというように缶コーヒーブランドを



持たなかった伊藤園としては、タリーズ買収は安い買い物だったのかもしれませんが。

当社も現在伊藤園さんとは委託契約で自販機展開をしています。自販機においても今後の注目メーカーの一つになったのは間違いなさそうです。

今後の飲料業界地図も大注目ですね。



■コラム

■先月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5		SUNTORY売れ筋ベスト5		JT売れ筋ベスト5	
1位	ダイドーブレンドコーヒー	1位	ボス贅沢微糖	1位	リアルブレンド ロイヤルミックス
2位	デミタスコーヒー	2位	ボスレインボーマウンテン	2位	大地が磨いたきれいなな水500P
3位	ブレンドスペシャル	3位	ボス無糖ブラック	3位	ルーツデュアルテイスト
4位	Mコーヒー樽	4位	ボスシンプルスタイル	4位	桃の天然水500P
5位	葉の茶450P	5位	ボスカフェオレ	5位	スーパーハイオク480B

ダイドーブレンドスペシャルが大健闘しています。場所によってはブレンドを抜くほど売れている所があるほどです。昨年との売上を比較してもその他のコーヒーとかぶっていないのでコーヒーカテゴリーとしては上乘せができていないのでしょうか？

■コラム

■幸せを考える旅

ブータン王国に行ってきました！

皆さんは国民総幸福量（GNH）という言葉聞いた事がありますか？GNP（国民総生産）は良く聞く言葉です。これはもちろんその国の経済力を測る上で基準となる数字なのですが、このGNHはその国の幸福度を測る数値なのです。そのGNHが世界一なのが、中国とインドには含まれた小国ブータンなのです。ブータンはなぜ幸福度が世界一なのか？それを見に行く。それが今回の旅行の目的の一つでした。



今回ブータンに行けるきっかけは、友人の友人がブータン人の女性と結婚してブータンに住んでいます。私の友人はその人と大親友の間柄で、ブータンへ行ってしまいとても寂しい思いをしていました。どうしても、一度ブータンに行きその大親友の結婚の祝福をしたいと1年がかりで計画を練り、10人のグループツアーを企画しました。

私はその計画を8月に知り、直接その人は知らないけれど是非ブータンという国には興味があるので、参加させてもらえないかという事で、今回のブータン訪問が実現したのです。

ブータン在住のK氏、隣はブータン人の奥様（可愛い人で 日本からブータンに行くには、バン

す)

コク経由が一般的となります。バンコクからブータンまでは約4時間、やはり少し長旅になるので覚悟がいきます。

バンコクからブータンへの空路はチベットの山脈地帯を通っていくので、飛行機から外を見ると同じ高さに山が見えるのには驚かされます。ブータン空港があるのは、パロという山間の町です。着陸が世界で2番目に難しいと言われる空港です。その証拠に着陸時は山肌ギリギリを通り着陸していきます。やや恐怖感を覚えます。

パロからブータンの首都ティンブーに向かいます。約1時間の道のりです。ヒマラヤから雪解けの水が流れる川に沿って山間道路をひた走ります。途中山の斜面にライステラスがたくさん見ることができます。またブータンの伝統的な家がポツリポツリと点在してまます。家はとても大きな家で、貧しさなど微塵も感じられません。この伝統的な家屋を景色から取り除けば、まるで日本の東北地方や長野に 있다고言ってもおかしくないと感じます。

ブータンには信号が一つもありません。首都ティンブーに唯一人が手旗で信号の役目をしているところがあります。ここがブータンの一番の繁華街ということなのでしょう。つまりブータンの銀座です。

大きなスーパーマーケットや家電量販店などは一切なく、全てが小さなお店が軒を連ねます。街の真ん中にブータン銀行と郵便局があります。両替を兼ねてブータン銀行に訪問しました。通貨はニュルタム。ここ数年インフレ気味で金利も高いまま維持されているようです。興味本位でカウンターで口座開設を依頼してみましたが、やはり旅行者では口座開設は無理のようでした。ちなみに普通預金で4%、5年の定期で8%の金利がつくそうです。自動車ローンなどでお金を借りる場合は14%の金利がつくそうです。

この国では鉄道も国内航空も無いので唯一の足が車となります。もちろん道路インフラもまだまだですが、車のリース業はかなり可能性があるのではないかと感じました。また2010年つまり今年から、100%外資の参入が認められたそうで、もし興味のある方は調べて見る価値はありそうです。また小売業も駐車場を備えたスーパーやコンビニなどは一切ないので今後の可能性としてはとても面白いのではないのでしょうか？



パロ空港



ブータン唯一の（警察官による）信号



ブータンの伝統的な家屋（作るの2年はかかるそうです）

ブータンを旅するのに少し知っておかなければならないことがあります。まず、個人の自由旅行ができないということです。ビザを取得するときに全行程の宿泊地や経由地を確定させておかなければならないというルールがあります。また旅行費は国が公定料金というのを決めていて一律220 USドルということになっています。（ホテルによって多少値が上がる・今回私達は250ドル）。この金額にホテル・食事・ガイド・車が含まれるという形になります。このお金は一度全て政府に入り、その後各業者に振り分けられるそうです。

また、ブータンはこれといった史跡や景勝地が無いので、自分自身で下調べをして目的を持って

たずねると面白い旅行になるのではないのでしょうか。



日本の田舎の風景に似ていませんか？



ブータンの政治

ブータンでは珍しい王様のいる国です。現在の国王で5代目で約100年の歴史があります。5代目はイケメンでアジアの国々では女性に人気でとても有名です。この王国も今から2年前に民主主義を導入し初の選挙が行われ、君主制から立憲制の国に変わりました。その選挙は2008年3月24日に行われました。投票率は70%を超え、即日開票を伝えるTV中継は、調和党45議席、国民党2議席という一方的な結果を伝えました。多くの女性議員が誕生し、選挙後の組閣でも東部、南部出身の大臣が過半数を超えるなど、初めての経験とは思えないバランス感覚を示すこととなりました。その後2008年7月18日、憲法の制定を祝いタシチョ・ゾンに大仏画が翻り、その瞬間からブータンにデモクラシーが導入されたのです。



大臣の邸宅、一番右の大きな家が総理大臣の家



国会議事堂（ティンパー）

ブータングルメ

さてブータンの食べ物はどんな感じなのでしょう？今回の私達の食べたブータン料理の一部を紹介したいと思います。



基本的に主食はお米、日本のお米より小さめですが、タイ米のような臭みは一切ありません。写真は赤米。



そば粉を使った餃子



そば



エマ・ダツィ（代表的ブータン料理）唐辛子をチーズで煮込んだ料理。どこへ行ってもこれが出ます。強烈な辛さがクセになります。

牛ひき肉の炒め
（日本人の口に合います）

かぼちゃのにんにく煮込み



ポテトとチーズの唐辛子煮込み

鶏肉の煮込み

ブータンビール（いまいち）

ブータン料理の特徴はご飯と肉と野菜の煮込みが基本的なパターンで、煮込み料理は唐辛子を使った辛いのが多いのでご飯と一緒に混ぜて食べる食べ方が一般的なので、カレーの食べ方と似ているかもしれません。しかし調味料はカレーとは違って塩、チーズ、バター、山椒が主なもので、どちらかというとかレーより四川に近いかもしれません。

またどんなレストランに行ってもあるのが、エマ・ダツィという料理で唐辛子とチーズを煮込んだ料理です。これは唐辛子そのものを野菜として食べる料理で、当然激辛です。私達はそのまま食べるのは不可能だと思いました。そこでこのエマ・ダツィを少量お皿に盛ってご飯とおかずと混ぜて食べるとこれがスパイシーなご飯になり、とても美味になります。ブータンに行ったらこのエマ・ダツィからは逃げられませんよ。

ブータンの民族衣装

ブータンの男性用の服装を「ゴ」、女性用の服装を「キラ」と言い日本の着物にとっても似ています。ブータン人の大半がこの民族衣装をまとっているのです。ブータンを旅すると異次元空間と言うか、昔にタイムスリップした感じが味わえるのではないかと思います。

私達もこの「ゴ」と「キラ」をレンタルさせていただき、着てみました。着てみると以外に動きやすく、下はスカートのようなです。また懐が深く、ドラえもののポケットのようにたくさん物が入るので、ポシェットなどの小さな鞆は不要になります。また女性の「キラ」は色が鮮やかで、とても日本の着物に似ていると思いました。

少し残念に思ったのは、全てのブータン人がこの衣装を着ていないかったことです。やはり欧米の文化やファッション

の影響なののでしょうか。ジーンズにシャツという若者もちらほら見られたのです。ガイドさんと夜にバーに行ったのですが、ガイドさんも夜には「ゴ」を着ていませんでした。日本や欧米と変らないカジュアルな格好をしてきたので、少し寂しい気がしました。

このような伝統的文化はいつまで残してもらいたいと思うと同時に、日本の着物文化も残していかなければならないのではと思いました。



ガイドのサガさんとその彼女



「ゴ」「キラ」を仕立てるお店・仕立て代600円

今回の旅行の参加されたおばさま方・キラを見事に着こなされています

幸せを考えてみた

このブータンの旅のテーマである「幸せって何？」について少し考えてみました。

実はこのGNH、最近とても注目されているのです。「経済成長率の高い国、医療が高度な国、所得や消費が多い国の人々は本当に幸せなのだろうか？先進国でうつ病に悩む人が多いのはなぜだろうか？地球環境を破壊しながら成長を遂げて豊かな社会が訪れるのだろうか？」本来の人間は他者とつながりや自由な時間や自然との触れ合いなどが、安心して豊かに暮らせるための欠かせないではないか？

こんな疑問が先頃の金融危機をきっかけに世界各国で語られるようになったのを皆さんはご存知ですか？

このGNHは①心理的幸福②健康③教育④文化⑤環境⑥コミュニティ⑦よい統治⑧生活水準⑨自分の時間の使い方の9項目の構成要素があるそうです。例えば心理的幸福を測る場合、正・負の特定の感情を心に抱いた頻度を測るそうです。正の感情は「寛容・満足・慈愛」、負の感情は「怒り・不満・嫉妬」でこれらを色分けして感情を示す地図を作ると一目で幸せ度が見えてくるというものなのです。

たとえばこれで世界地図を作ると日本はどうなるのでしょうか？尖閣諸島問題でゆれる、日本と中国はどうなるのでしょうか？アメリカは？ヨーロッパは？



今回のブータン訪問で驚いたことをいくつか挙げてみます。

- ・街に物乞がない
- ・家や敷地がとても大きい

- ・教育、医療は全て無料
- ・ほぼ100%英語が使える（学校教育がすべて英語でおこなわれている）
- ・ほぼ全ての人が仏教徒（南部に一部ヒンズー教徒がいる）でとても信心深い
- ・大型の店は1店もない（ショッピングセンター、家電屋・・・）

つまりブータン人は、衣食住という基本的なことは満ち足りていて、更に教育も無料で水準が高く、仏教に信心深い生活をしているということになるわけです。唯一私達と違うのは、物が満ち溢れていないこと。つまり商業活動はそれほど盛んでないということなのです。経済活動の活力の源は競争で、これは人間の基本的な欲を満たすものなのですがこれがブータンではとても少ないというかあまり感じられないのです。つまり競争（≒戦い）がない国なのです。

例えば、ほとんどに人が民族衣装を着ている国に欧米型の衣料メーカーは必要ありません。ほとんどが山道でそれほど整備が良くない道路事情でベントは必要ありません。インターネット環境は良く、携帯もどこでも通じ（私のソフトバンク携帯は問題なし）、外の情報はたくさん入ってくるのに、それらに侵されていかないこの国の環境と人々のマインドは驚くべきものです。

結局人間の幸せの尺度というものは欲を満たす度合いでなく、どれだけ自分の幸せを自覚し、どれだけ自分の置かれた状況に満足しているかの度合いだという事なのかもしれません。そういう意味ではブータンの人々はその満足度が高いということなのでしょう。

自然を満喫する国

さてブータン国の旅行の魅力はどこにあるのでしょうか？ブータンへの道のりはバンコク経由で入国することになりますので、日本からだとかなり時間がかかります。そんなに長い旅路をしてまでも、ここに行く魅力は何があるのでしょうか？

今回ガイドさんといろいろ話しましたが、どうやらオススメはトレッキングだそうです。ブータントレッキングの魅力はまるで現在から過去へ時間の旅をしているような感覚になるということらしいのです。果てしなくひろがる大森林、ヤクの群れを見ながら氷河へと続く道、中世の人達が目にしたのと同じ風景を荷馬のキャラバン隊が進む、こんな感じでしょうか。

ブータンのトレッキングスタイルは、全工程がテント泊になり、食料、燃料を含め水以外の全てのもの町から運び上げるそうです。旅行者の荷物はもちろん、ガイド、コック、馬を管理する親方とそのそれぞれのアシスタントの荷物を運ぶので、2~3人のグループでもスタッフ6人、馬15頭といった大編成になるということです。テントの設営や食事の支度は全てスタッフがやってくれるので、旅行者は歩いたり、写真をとったりするだけでOK。

こんな自然を満喫するトレッキング、人生で一度は体験してみたいものです。

■コラム

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!

ただいまブログは7名が更新中です。

- ・所長のブログ（小田原H所長）
- ・マネージャーの部屋へ
- ・情報最前線（海老名K所長）
- ・つんつるてんSTORY
- ・販促課オオクワ80mm
- ・産地直送！新鮮ネタ（海老名Nチーフ）
- ・パソオタの独り言（パンドラの箱を開けて



最後に出てくるのは・・・）

ブータンには道の脇に雑草のように大麻草が生えています。

もちろん採ったら警察につかまります。

■2010年度のマンスリーNEWS

⇒	2010.10	アークル	マンスリーNEWS
⇒	2010.09	アークル	マンスリーNEWS
⇒	2010.08	アークル	マンスリーNEWS
⇒	2010.07	アークル	マンスリーNEWS
⇒	2010.06	アークル	マンスリーNEWS
⇒	2010.05	アークル	マンスリーNEWS
⇒	2010.04	アークル	マンスリーNEWS
⇒	2010.03	アークル	マンスリーNEWS
⇒	2010.02	アークル	マンスリーNEWS
⇒	2010.01	アークル	マンスリーNEWS

■マンスリーNEWSアーカイブ

⇒	最新	マンスリーNEWSトップページ
⇒	2009年度	2009年のマンスリーNEWSアーカイブ
⇒	2008年度	2008年のマンスリーNEWSアーカイブ
⇒	2007年度	2007年のマンスリーNEWSアーカイブ
⇒	2006年度	2006年のマンスリーNEWSアーカイブ
⇒	2005年度	2005年のマンスリーNEWSアーカイブ
⇒	2004年度	2004年のマンスリーNEWSアーカイブ
⇒	番外編	マンスリーレポート番外編

